

# 地域連携・がん相談支援センターだより

*Regional alliances and support*

2016

54号



撮影者：放射線科部長 永倉久泰

## 目次

2. 病院長就任のご挨拶
3. 地域連携・がん相談支援センター  
センター長就任のご挨拶  
地域連携・がん相談支援センター  
副センター長就任のご挨拶
4. 低侵襲レーザー（PASCAL）のご紹介
5. がん看護外来のご案内
6. 新職員を紹介します
7. 地域連携がん相談支援センター新スタッフ紹介
8. KKR札幌医療センターの理念・基本方針  
編集後記  
地域連携・がん相談支援センター職員一覧



## 病院長就任のご挨拶

病院長 磯部 宏

連携いただいている諸先生方には日頃から格段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、平成28年4月1日付けで赤坂嘉宣前病院長を引き継ぎ、KKR札幌医療センター病院長を拝命いたしました。連携医の皆様にご挨拶を兼ねたご報告と、これからも変わらぬご支援のお願いを申し上げます。

私が大学を卒業し医局に入局後、新人医師半年目で研修を開始したのが「幌南病院」でした。内科医師としてのスタートが幌南病院だったのですが、それから三十数年の年月を経て幌南病院（現：KKR札幌医療センター）の病院長に就任しましたこと、大変感無量であります。同時に、個人的には内科医の第一歩としてお世話になった当院に対して、またこの10年間腫瘍内科医として、あるいは地域連携・がん相談支援センター長としてお世話になった連携医の先生方に対して、最大限の力で貢献できるよう心を新たにしております。

KKR札幌医療センターに全面改築・施設名改称後、川上義和先生・赤坂嘉宣先生と両院長先生が掲げてこられた当院診療の2本柱は「がん診療」と「救急医療」です。これからもこの2本柱を中心に診療機能の充実を計りたいと思います。しかし、がん診療も救急医療も単科で行うことができるものではありません。総合病院として多くの診療科の力を結集していきたいと思います。さらに少子化時代の現在においても、産婦人科・小児科医療を充実させ、また悪性腫瘍の増加を背景に緩和ケア医療の充実も、総合病院としては先頭を切って取り組んでいきます。

なお、高齢化社会を迎えた今日、複数の慢性疾患を抱えた患者さんが増え、完全治癒が唯一の目標ではなく、生活の質の維持・向上や疾患を癒すことが目標となってくることも多々あります。そのため当院は、患者さんが住み慣れた地域・自宅での生活を重視する「地域完結型」の医療を連携医の先生方と共に築き上げていきたいと考えております。特に地域連携・がん相談支援センターが中心となって、先生方に信頼される医療機関であり続けることに努力していきます。

札幌の東南、幌南の地にある当院、KKR札幌医療センターは、地域に根差した総合病院としての役割を現在もこれからも力いっぱい発揮していきます。連携医の先生方のご支援をよろしくお願いいたします。





## センター長就任のご挨拶

地域連携・がん相談支援センター長 本多 敏 朗  
 (代謝内分泌科部長代行)

2016年4月より地域連携・がん相談支援センター長に任命されました本多敏朗と申します。当院には幌南病院時代の2000年に赴任し、新しくなったKKR札幌医療センターを含めて16年間勤務させていただいております。代謝内分泌科として主には糖尿病の患者さんを中心に診療を続けてきました。昨年度までは臨床の現場でのみ働いてきましたので医療情勢や病院経営など全く考えたことはありません。また糖尿病を専門としていることもあり、癌の患者さんの診療に当たることはほとんどなく、がん相談支援センターなる部署を担っているのか不安だらけです。

これからの日本は、他国に例をみない急速な高齢化が進行することが指摘されています。2025年頃には団塊の世代といわれる方々が75才を向かえ、高齢者の割合がこれまでになく高まり、医療費、社会保障、その他の課題にどう取り組んでいくかが2025年問題として取り

上げられることが多くなっています。私の外来でも以前に比べて高齢者の割合が格段と高まっていることを実感する毎日です。自分が専門としている糖尿病の分野では最近の話題として高齢者の治療に関するセミナーや講演会がすごく増えております。糖尿病の患者さんでも高齢化に伴って血管合併症のみならず癌や認知症といった新たな合併症が顕在化し、介護をはじめとした新たな連携も今後必要になってくることが考えられます。

この部署とは縁遠い存在であった私ですが、今後地域の先生方のお力添えを得て、地域の住民のみなさんのお役に立てるように努めていきたいと考えております。

今までにも地域の先生方には大変お世話になってきましたが、今後は今まで以上に相談をさせていただく機会が増えることと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。



## 副センター長就任のご挨拶

地域連携・がん相談支援センター 副センター長 (循環器内科部長) 白 井 真 也

この度地域連携・がん相談支援センター副センター長に任命いただきました。これまでは一内科医・循環器科医として、地域の皆様や諸先生方のお役に立てるよう努めて参りましたが、この後は病院を代表する形でも先生方と相談させていただくものと気持ちを新たにしています。KKR札幌医療センターはその立地から、札幌東南部を中心として地域に根差した医療を必要とされてい

ます。この地に存在する総合病院としての役割も大変大きいものと実感しながらこれまでも診療して参りました。この思いは変わることなく、地域の先生方からはより相談しやすく、より連携しやすい病院であるように、新センター長・本多先生やスタッフとともに歩んでいきたいと思っております。今後とも何卒よろしく願いいたします。

# 低侵襲レーザー（PASCAL）のご紹介

眼科部長 吉澤史子

日頃より連携医の諸先生には、たいへんお世話になっております。

今年度当眼科は、横山英恵医師が転勤し北大病院から菊地香澄医師（2012年度札幌医大卒業）が赴任しました。また、視能訓練士（ORT）を2名から3名に増員し、新しく佐藤みどりさんを迎え医師3名、ORT3名、看護師2名で外来診療を行っています。

さて、当外来では、今年3月に最新技術を搭載したレーザー光凝固装置PASCAL（パスカル：TOPCON社製）を導入しました。

パスカルの最大の特徴は、何と言っても“痛みが少ない”という点です。レーザー治療に伴う“痛み”は、患者さんにとって苦痛であるばかりではなく、治療脱落のリスクにつながるため、我々医療従事者にとって常に頭を悩ませてきた問題です。

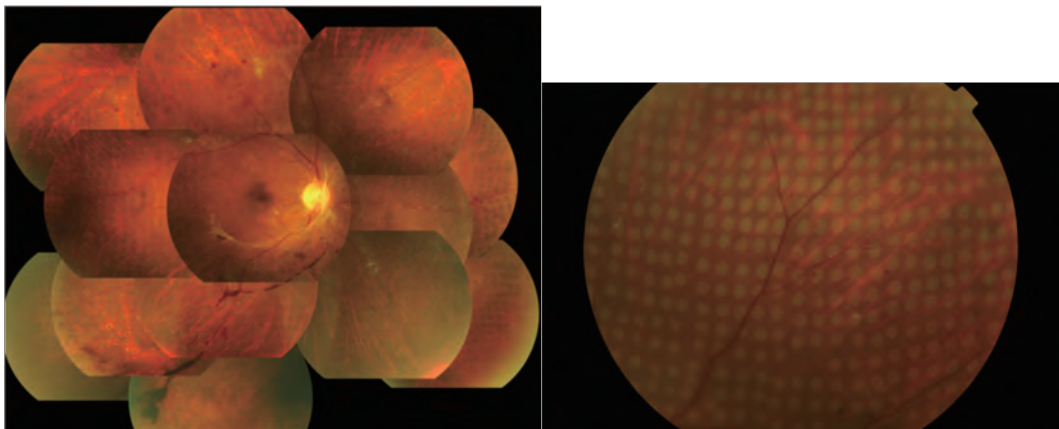
パスカルでは、短時間（10ms-20ms）x高出力で網

膜外層を選択的に照射するため、脈絡膜への熱の伝達が減り疼痛が軽減されると考えられています。

また、短時間照射により網膜内層や脈絡膜への侵襲が減少するため、炎症性サイトカインなどのケミカルメディエーターの放出が少なく、黄斑浮腫の発生が少ないことが報告されています。

さらに、従来のレーザーは、一回の照射で1スポットですが、パスカルは一度に複数のスポットを置く“パターンスキャンレーザー”が可能で、2x2から最大5x5のグリッド状のスポットを瞬時に照射し、素早く汎網膜光凝固（PRP）を完成させます。当院では、4回に分けて行っていたPRPが、現在は2回で行えるようになりました。

今後、パスカルによる疼痛と治療回数の軽減により、患者さんへの大きなメリットが期待できると考えております。パスカルによるレーザーご希望の患者さんがおりましたら、是非お気軽にご連絡下さい。



<パスカルによる PRP 後の眼底写真>



## コンステレーション® ビジョンシステム （白内障・網膜硝子体手術装置）

白内障手術に加えて、網膜硝子体の手術を同時に実施できる、従来の手術装置より高い安全性を追求した、最新鋭の網膜硝子体手術装置です。

# がん看護外来のご案内

がん看護外来は、がんと診断された患者さんにご家族の治療や療養生活に関する心配ごとや不安等に対して、専門の看護師が相談をうけて一緒に考えます。

例えば・・・

- ・病気や、治療について詳しく知りたい
- ・手術、放射線治療、抗がん剤治療等について、詳しく知りたい
- ・がん治療の副作用で困っている
- ・がんによる症状（からだの症状、きもちのつらさ）で困っている
- ・がん治療による費用や仕事への影響が不安
- ・療養場所について（自宅、施設、緩和ケア病棟など）の情報が欲しい

対 象：当院に通院中のがん患者さん・ご家族

日 時：毎週 月・火・木・金

13:00～、14:30～、16:00～

予約制（状況によっては、当日対応も行ないます）

場 所：2階 麻酔科外来診察室

予約方法：①主治医、看護師等の医療スタッフにご相談ください

②下記の問い合わせ先に、電話予約してください

費 用：がん患者指導管理料2（1割負担200円、3割負担600円）がかかる場合があります

担当者：がん看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師

がん放射線治療看護認定看護師、緩和ケア認定看護師

問い合わせ・予約先：KKR札幌医療センター

地域連携・がん相談支援センター

電話：011-822-1811（代）8：30～17：15



## 新職員紹介



### 小児・アレルギー・リウマチセンター長 **小林 一郎**

この度、高橋豊先生の後任として赴任致しました。学生時代は平岸から北大へ通い、現在は北大の近くから平岸に通っています。アレルギー指導医に加え、道内小児科医としては唯一のリウマチ指導医でもあります。これまで当院で積み重ねられたアレルギー診療に、小児リウマチ・膠原病・自己炎症性疾患に対する専門的診療という新たな領域を加え、当院小児科の診療の幅をいっそう拡げて行きたいと思っております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

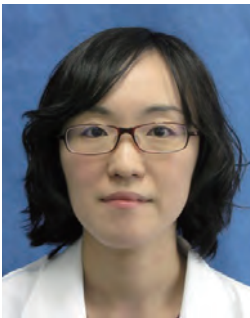
### 麻酔科医師 **小野 肇**

麻酔科の小野肇です。当院での後期研修を終え、引き続き麻酔科で勤務させていただくこととなりました。執刀医の先生方が少しでも集中して手術に専念できるよう、患者さんが少しでも苦痛や不安なく手術を受けることができるよう、励みたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



### 産婦人科医師 **松宮 寛子**

この度、KKR札幌医療センター産婦人科に赴任いたしました、松宮寛子です。帯広厚生病院での初期研修後、函館中央病院、北海道がんセンターを経て、当院へ着任いたしました。産婦人科医としては5年目になります。婦人科疾患としては良性から悪性まで、幅広く担当させていただいております。また、周産期医療としては、妊娠から出産まで、安心安全に過ごせるよう、診療に臨みたいと思っております。一日も早く、皆様のお役に立てるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



### 泌尿器科医長 **堀田記世彦**

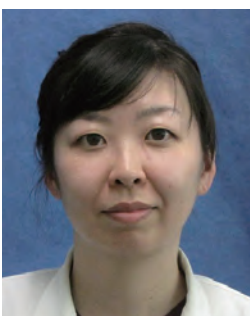
本年度よりKKR札幌医療センター泌尿器科に赴任致しました堀田記世彦と申します。今年で泌尿器科17年目となります。専門は腎移植と腹腔鏡手術ですが、全ての泌尿器科疾患を担当させて頂きますので、何卒宜しくお願い申し上げます。



### 皮膚科医長 **野村友希子**

この度、KKR札幌医療センター皮膚科に赴任いたしました。医師としては13年目になります。

ニキビのような身のまわりによくある皮膚の悩みから、天疱瘡、重症薬疹などの重症な皮膚疾患まで、地域に根差した治療を行っていければと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。





## 外科医長 財津 雅昭

初めまして。

今年の4月より外科に配属した平成15年卒の財津です。

初期研修医制度が始まる1年前に北大第1外科(現:消化器外科1)に入局したギリギリな世代であります。最初の7年間は臨床に従事して外科のトレーニングを色々とやらせていただきました。後半の6年間は移植免疫学のリサーチを行っていました。その後、1年間は肝移植医療の現場の経験をさせていただきました。つまり、癌の領域からしばらく遠ざかっていました。その間に、色々とガイドラインの変更や新規薬剤が承認され、医療の進歩を目の当たりました。浦島太郎になれた気分ではあります。本年度より消化器外科医として修練をさらに積むため、KKR札幌医療センターに赴任することが叶いました。地域医療を携わって痛感したことですが、消化器外科は連携医の諸先生方のご尽力があつて初めて機能する医療と認識しております。なんとか先生方の期待に応えるように努力してまいる所存であります。今後ともよろしく願いいたします。

## 地域連携・がん相談支援センター新スタッフ紹介



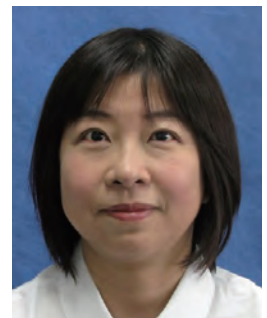
## 平山さおり

このたび、地域連携・がん相談支援センターで、主にがん相談を担当することになりました。3月までは、緩和ケア病棟や緩和ケアチームで活動してきましたが、これからは通院治療中の患者さんご家族の支援、退院支援に重点をおきます。

4月から「がん看護外来」を開設しました。当院で治療していない患者さんにも保険外診療として対応致します。がん治療に関するご相談がありましたら、ご紹介をお願い致します。

## 藤島 尚子

平成28年3月より地域連携・がん相談支援センターに配属となりました看護師の「藤島 尚子」と申します。私は大阪出身で、国立循環器病センター心臓外科勤務後、札幌に移住し、北海道がんセンター救命救急に勤務した経験があります。地域連携医療機関の信頼を損なわないようスムーズな連携を目標とし、患者さんに親切・丁寧な対応を心がけていきたいと思っております。今後ともよろしく願い致します。



## 守屋 恵

平成27年3月より出産・育児のためお休みを頂いておりましたが、この度地域連携・がん相談支援センターに復帰することとなりました「守屋恵」と申します。約1年ぶりの仕事となり、忘れていたことを思い出しながら日々業務に励んでおります。

地域医療支援病院として連携医療機関の皆様・患者様に信頼して頂けるよう迅速、かつ丁寧な対応を心がけていきたいと思っております。地域と当院とを繋ぐ架け橋となれるよう努力していきますのでどうぞよろしくお願い致します。



## KKR 札幌医療センター 理念

「病院は人」のところで、活力ある病院、選ばれる病院を創ります  
生命の尊厳を保ち、健康の回復につくします  
温かな配慮で安寧（あんねい）につくします

## 基本方針

1. “生活の質” 向上に重きをおく医療を心がけます
2. 安全を確保し、時代を先取りした医療を推進します
3. 患者さんの声に耳を傾け、分かりやすく説明します
4. 医療の情報を進んで開示します
5. 地域に信頼される医療を目指します

## 編集後記

新緑の美しい季節になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。新年度を迎え、当院地域連携・がん相談支援センターも、本多医師を新たにセンター長に迎え、5名の新しいスタッフが加わり活気あふれるスタートとなりました。地域連携・がん相談支援センターでは、一丸となり地域医療機関の皆様、患者さんのお役に立てるよう頑張っていきたいと思っております。今後ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。これから暑くなる季節になりますが、体調管理には十分ご留意されて下さい。

在宅看護・退院支援室 平田 公子

## KKR 札幌医療センター

〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条6丁目3-40  
TEL 011-822-1811(代)

連携いただいている先生方よりお受けしております  
地域連携室直通 TEL 0120-552-303  
FAX 011-832-9624

医療施設・患者・家族よりお受けしております  
がん・緩和ケア相談 TEL 011-832-3260



## 地域連携・がん相談支援センター職員

センター長	本 多 敏 朗	医療社会事業相談室	松 田 知 恵	社会福祉士(主任代行)
副センター長	白 井 真 也・齋 藤 敦		木 村 府 佐 子	社会福祉士
センター師長	平 山 さおり		宮 崎 雪 枝	社会福祉士
	湯 瀬 美佳子(兼地域連携室 室長)	在宅看護・退院支援室 室長	平 田 公 子	看護師(主任)
地域連携室	守 屋 恵		池 好 未	看護師
	藤 島 尚 子		小 松 友 希	看護師
	島 田 久 子			
	大 石 ひろみ			
	小 口 知 美			